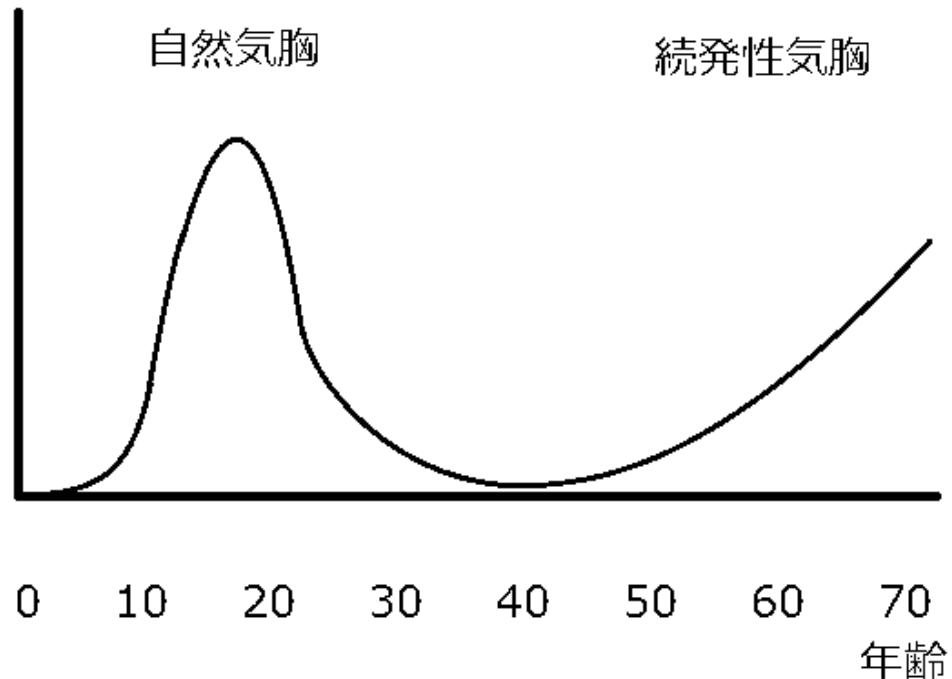


気胸には自然気胸と続発性気胸があります

自然気胸の発生頻度は20歳前後にピークがある。
その後、続発性気胸が増加します。

発症頻度

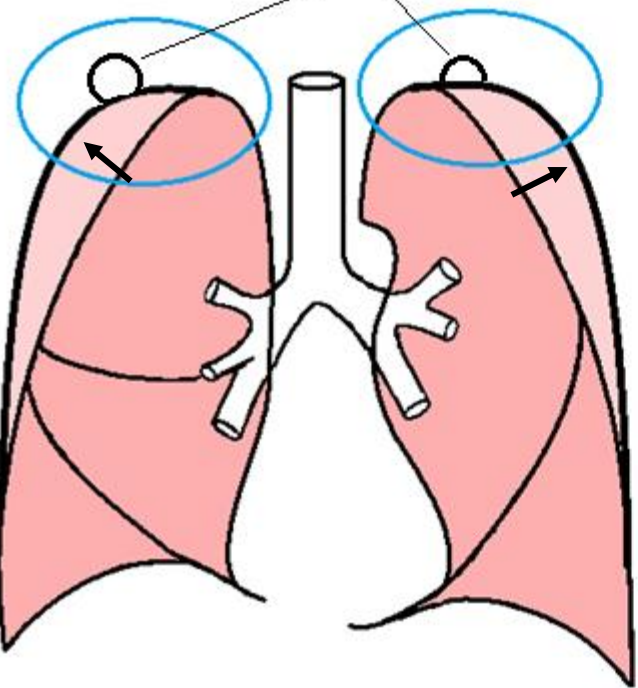


自然気胸は肺の成長の過程で
肺の胸膜の一部が脆弱になり、
そこが破れて空気漏れが生じます。

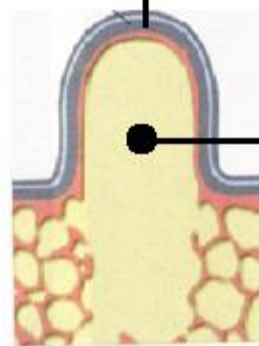
続発性気胸は肺気腫や肺癌、
感染症(ばい菌やカビ)などが原因で
肺の胸膜に穴が空き、空気漏れが
おきます。

若年者の自然気胸とブラ

肺尖部にできるブラが破れる



胸膜がふくらむ



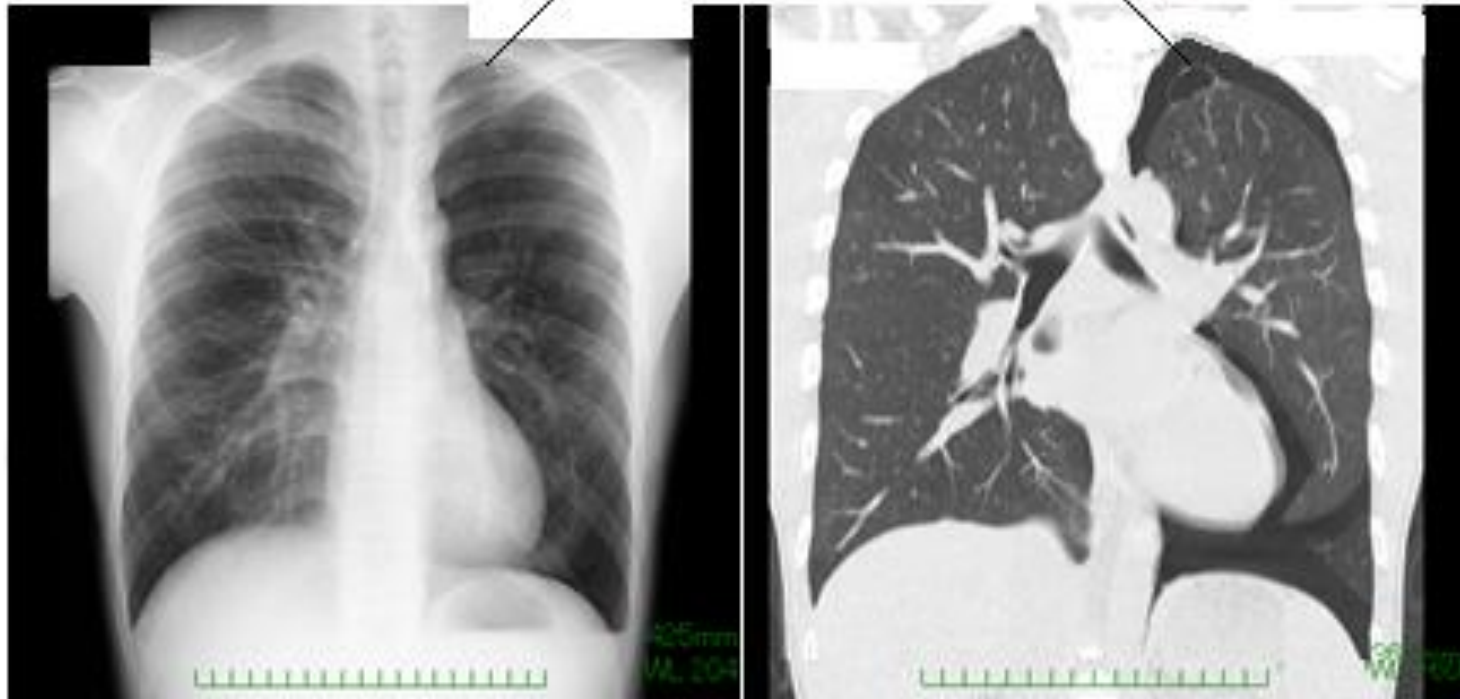
空気が貯留

ブラ

気胸体型のヒトは肺尖部が広がっていて、そこにブラができて破れることが多い

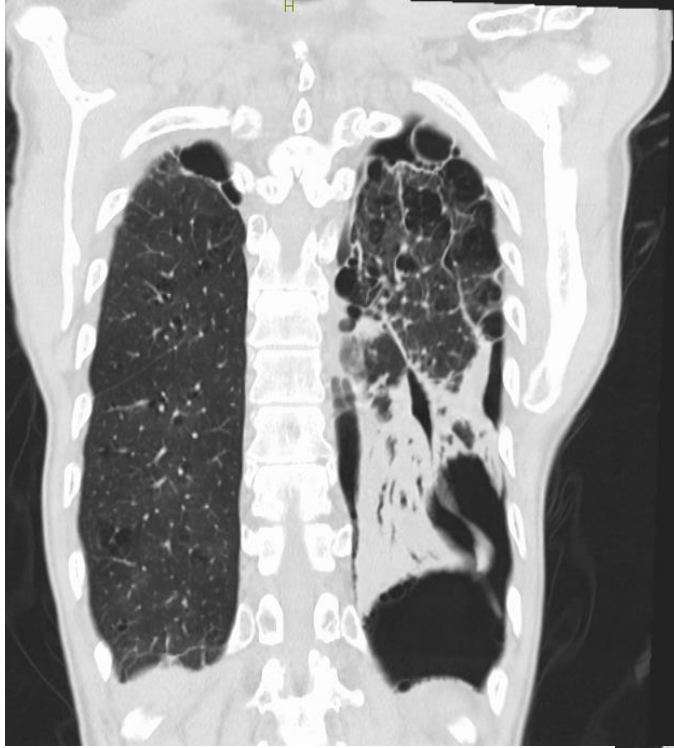
若年者の自然気胸例

胸部レントゲンで左の気胸。
CTの再構成画像でブラを認める

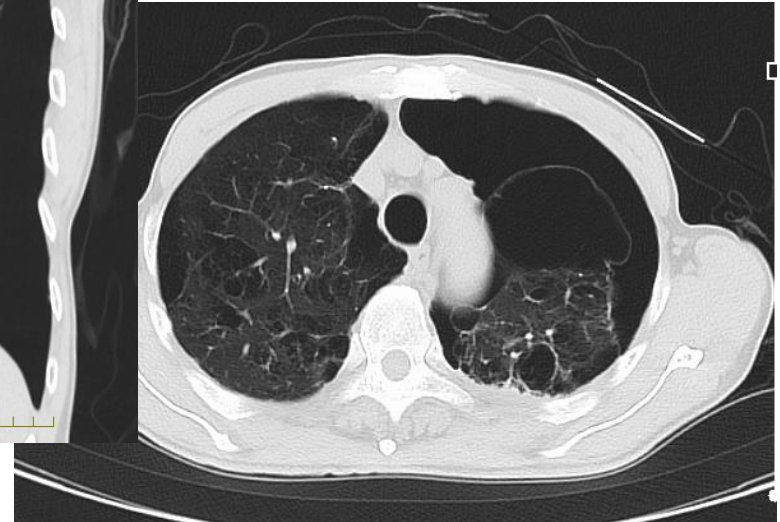


治療法は、漏れた空気を抜くため
ドレナージをしますが、
空気漏れが止まらない場合や、
一度治っても繰り返す場合に
手術でブラを切除して
切除部位を中心に補強する
処置を行います。

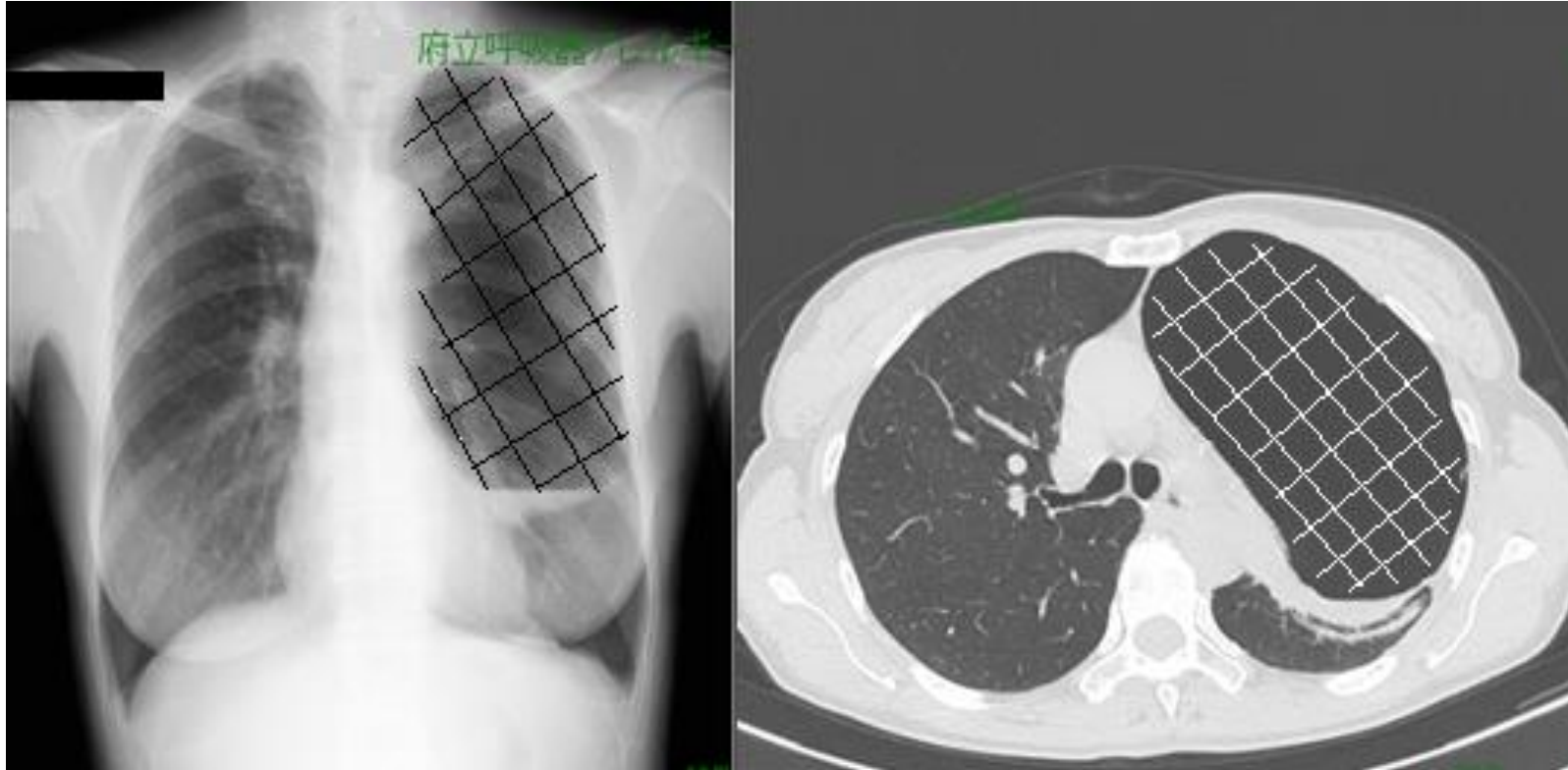
進行した肺気腫の気胸例



70歳代男性、進行肺気腫で多数のブラを持っています。その一つが破れて、強い呼吸困難を伴って発症しました。全身麻酔下に左肺ブラ切除・縫縮術と胸膜の補強を行い呼吸リハビリ後に自宅退院となりました。



気胸と間違えやすい巨大ブラ



網掛け部分が巨大ブラの内腔であり、空気がたまっている

- 片側の肺野約1/3以上の肺嚢胞で肺機能検査に異常値が出る。
- しばしば気胸と誤診されるので要注意。
- 図のように辺縁が明瞭で肺気腫の程度が軽い場合は切除します。
- 高度の肺気腫に合併することも多く、その場合手術後の呼吸リハビリが必須です。

特殊な気胸—月経随伴性気胸

典型的な例; 30~40代女性の場合

- 6月 月経前に右胸痛があり、受診された。
7月 胸部レントゲンで右気胸あり、胸腔ドレナージを行い空気漏れが長びいたが、軽快退院された。
8月 月経2日目に右胸痛あり、気胸を再発し、手術を行った。
切除標本で肺表面と横隔膜に子宮内膜を認めた。

術後経過

ホルモン療法（低用量ピル）を内服しているが月経時には、時々軽度の気胸が出現する。

最近の治療法としては、特殊な人工素材を用いて肺全体を癒着させる方法が行われています。

